



ズバツと!

## Q&A

### シニアの発症例が多い「パーキンソン病」とは?

中高年に多く発症するパーキンソン病。震えや歩行困難などさまざまな症状があり、介護が必要な場合もあるそうです。パーキンソン病について、甲府脳神経外科病院脳神経内科の長坂高村医師に聞きました。



ながさか・たかむらさん

日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会認定医。  
日本神経学会、日本神経治療学会、日本脳卒中学会、  
日本リハビリテーション学会など所属。

甲府脳神経外科病院  
脳神経内科部長  
長坂 高村さん



「パーキンソン病」はどんな病気なのですか?



脳内で情報を伝える「ドーパミン」という物質が減ることにより、手足などが震えたり、体がこわばったりする病気です。震えは安静時や緊張時に出ることが多いのが特徴です。体のこわばりにより、ボタンかけなどの細かいことがやりにくくなったり、歩行が不安定で方向転換や狭いところが歩きにくかったりするため、転倒する危険性も高まります。このほか、意欲低下や便秘、頻尿、嗅覚低下、睡眠障害などもみられます。主に中高年で発症し、65歳以上の100人に1人にみられます。



診断法は?



当病院神経内科では、問診などを行った後、<sup>スペクト</sup>SPECTという脳のドーパミンや心臓の交感神経機能を調べる検査とMRI検査を行って診断します。早めに診断し、治療に入ることによって日常生活における動作や生活の質の維持、改善をすることができます。



どのような治療をしますか?



基本は内服治療で、<sup>エルドーバ</sup>L-DOPAという薬を中心に症状に合わせて複数の薬を使い分けます。運動をすることも重要なので、専門的なりハビリと自主トレーニングを行うことも大切です。また、音楽療法も効果が高いと言われており、リズムに合わせて歩いたり、カラオケで歌ったりすることで、呼吸やのどの機能の強化が期待できます。気分の安定にもつながります。



介護のポイントは?



転びやすいので安全の確保をしつつ、自分でできることはできる限り自分でやってもらうことが大事です。飲み込む機能が低下する場合がありますので、バランスの良い食事を心掛けて、食べやすいものを用意しましょう。症状によっては狭いところが移動しにくい場合もあるので、室内を整理して歩きやすくしたり、手すりをつけたりして工夫します。睡眠をしっかりとれるように、時間の管理や寝室の環境を整えることも大切です。